
Trial series T1102D
3kW 4kVA Inverter Unit
Users Manual

Index

1. はじめに.....	3
1.1. はじめに.....	3
1.2. 適用ユーザー.....	3
1.3. 注意事項.....	3
1.4. 警告事項.....	4
2. インバータ概要.....	6
2.1. 特徴.....	6
2.2. インバータブロック図.....	6
2.3. 仕様.....	7
3. 各回路ブロックの注意事項.....	8
3.1. 突入防止回路.....	8
3.2. PFC 回路.....	10
3.3. 電流検出回路のオペアンプの選択.....	11
3.4. 電流検出回路のフィルター.....	12
3.5. ワンシャント電流検出時の改造箇所.....	13
3.6. 主回路過電流検出回路.....	14
3.7. 出力電圧検出回路.....	15
3.8. CPU 電圧切り替え方法.....	15
3.9. CPU カードとの接続情報.....	16
4. 外部接続.....	18
4.1. FAN power input.....	18
4.2. Inverter AC output.....	18
4.3. Inverter AC input.....	19
5. 温度上昇データ.....	20
5.1. 温度上昇データ.....	20
6. 発注情報.....	21
6.1. 型番一覧.....	21
6.2. 過去の製品.....	21
6.3. T1102A / T1102B / T1102D の違い.....	21
6.3.1. ケースの違い.....	21
6.3.2. T1102A の回路.....	21
6.3.3. T1102B の回路.....	22
6.3.4. T1102C の回路.....	22
6.3.5. T1102D の回路.....	22

1. はじめに

1.1. はじめに

本ユーザーズマニュアルは、T1102D-Vxx 高電圧インバータユニット用です。

このインバータは、永久磁石型同期モータや誘導電動機のモータ制御用に使用することを目的に設計されています。ただし、モータの特性、パラメータ、要求仕様の違いによりモータを駆動できない場合もあります。センサー、電力、電圧、電流範囲などをご確認の上、ご購入していただけるようお願いいたします。

1.2. 適用ユーザー

本インバータは、製品の研究段階や試作段階用のインバータとして設計されています。

1.3. 注意事項

1. この資料に記載されたすべての情報は、本資料発行時点の物であり、予告なく変更することがあります。弊社製品のご購入およびご使用にあたりましては、必ず最新の資料を参照していただけるようお願いいたします。
2. 本資料に記載された弊社製品、技術情報の仕様に関連し発生した第三者の特許権、著作権、その他の知的財産権の侵害に関し、弊社は一切その責任を負いません。弊社は、本資料によって弊社または第三者の特許権、著作権、その他の知的財産権を許諾するものではありません。
3. 弊社製品の複製等を行わないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、インバータ製品の動作例、応用例を説明するための物です。お客様の機器の設計、実験において、回路、ソフトウェアおよびこれに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの仕様起因して、お客様または、第三者に生じた損害に関し、弊社は一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替および外国貿易法」その他、輸出関連法令を順守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続きを行ってください。本資料に記載されている弊社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的、その他軍事用途の目的で使用しないでください。また、弊社製品および技術を国内外の法令および規制により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することはできません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すために慎重に作成したのですが、誤りが無いことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りによる損害がお客様に生じた場合においても、弊社は、一切その責任をおいしません。
7. 本製品は、実験用として設計されています。特に、交通システム（自動車、電車、船舶）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全機器、医療機器、生命維持機器、航空機器、原子力制御機器などに使用なさないようお願いいたします。
8. 本資料に記載された弊社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他、諸条件につきましては、弊社提案範囲内でご使用ください。
9. 弊社は、弊社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、ある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。弊社製品は、耐放射線設計については、行っておりません。弊社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせない様、お客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全対策およびエージング処理等、機器またはシステムとしての保証をお願いいたします。特にマイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造、実験なさる最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。

9. 本資料の全部または一部を弊社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。

1.4. 警告事項



危険

- ・火災の恐れがあります。

インバータが発火、発煙、異音、その他異常を感じた場合には、インバータをすぐに停止してください。その後、インバータへ接続している電源を遮断し、内部の電解コンデンサに残っているエネルギーがなくなっていることを確認してから、負荷などを外してください。



危険

- ・感電のおそれがあります。

インバータケース内部には、通常時でも400V近い高電圧部分があります。運転中はもちろんのこと、運転後でも内部の高圧部に電圧がかかっていることがあります。運転後インバータを破損した場合など、内部に直接さわらないようにしてください。感電により、死亡または、重傷を負う危険があります。



危険

- ・失明のおそれがあります。

本インバータには、ケースがありますが、ケースのフタを空けている時にインバータの内部が破裂した場合、内部のコンデンサに含まれる液体、破損した部品などが目に入り、失明する可能性があります。運転中はもちろんのこと、停止後でも、すぐにはケースのフタを開けないようにしてください。また、フタを開ける場合、下の写真のような防護用のゴーグルを着用するようにしてください。



注意

- ・やけどのおそれがあります。

本インバータには、運転中、運転後は場合により100℃を超えるような高温になる場合があります。触れる場合には、細心の注意をはらうようにしてください。



注意（発煙、発火の可能性あります）

- ・ケースの通気口をふさがないようにしてください。

本インバータには、内部を冷却するための通気口がありますが、この通気口をふさぐと冷却能力が減り、インバータ破損、発火の原因となります。



注意

- ・運転中はファンを動作させるようにしてください。

本インバータには、内部を冷却するためのファンがありますが、インバータ運転中にファンを運転しないとインバータの温度が上昇し、インバータ破損、発火の原因となります。



注意（発煙、発火の可能性あります）

- ・ソフトウェアを作成する場合、過電流、過熱など各種保護ソフトを先に作成してください。

本インバータには、ハードウェア単体でインバータを保護する機構がありません。CPUソフトウェアとCPUの内部機能を利用して保護する設計思想になっています。モータなどを運転するためのアプリケーションソフトを作成する前に、必ず、保護用のソフトウェアを作成するようにしてください。保護が働かない場合、インバータ破損、発火の原因となります。



注意

- ・高温、高湿度などの環境で動作させないでください。

本インバータには、実験用として設計されております。下記のような特別な環境で動作するように設計されていません。本説明書の動作環境からはずれた環境でお使いにならないようにしてください。故障、発火、破損の原因となります。

- ・振動・衝撃などがある環境
- ・腐食性ガス、可燃性ガス、湿度80%以上の環境
- ・高温、低温環境



注意（操作を誤ると死亡する可能性があります）

- ・本製品は、高電圧を取り扱います。高電圧の危険性を認識している方がお使いください。

本製品には、参考用の配線材などが同封されていますが、必ずしも、お客様の用途に合った配線材料とは限りません。かならず用途を確認してお使いください。

配線時には、危険をさけるため、電気を入れない状態で配線してください。

配線時には、濡れた手で扱わないようにしてください。



注意

- ・本製品の定格は、特定条件下で測定されたものです。

お客様がご使用になる入力電圧、出力電圧、出力電流、負荷条件、運転条件、温度環境などにより、扱うことのできる電力容量が大きく変化します。インバータが破損しないよう、温度、電流、電圧などをCPU、もしくは外部のセンサーなどで監視、保護するようにしてください。

2. インバータ概要

2.1. 特徴

本インバータユニットは、特に民生用機器の研究・開発用として設計されたものです。

- ・ 安価な量産用の回路をベースとした非絶縁構成の AC110V / AC230V 対応インバータ
- ・ ハードウェア PFC、ソフトウェア PFC を選択可能
- ・ ルネサスエレクトロニクス社製 CPU を各種選択可能（RL78G14, RX111, RX62T 2013/11/22 時点）
- ・ 量産を考慮して、CPU の空ピンを自由に使用できる回路構成
- ・ 量産を考慮した CPU のハードウェア保護を利用した過電流検出回路に対応（CPU 依存）
- ・ 系統側電圧、DC バス電流、DC バス電圧、3 相出力電流、3 相出力電圧、IPM 温度センサー内蔵
- ・ 最大電力 3kW 4kVA @AC200Vrms 入力時
- ・ 実験に便利な、上面透明ケース、冷却 FAN 付
- ・ 突入防止回路付

2.2. インバータブロック図

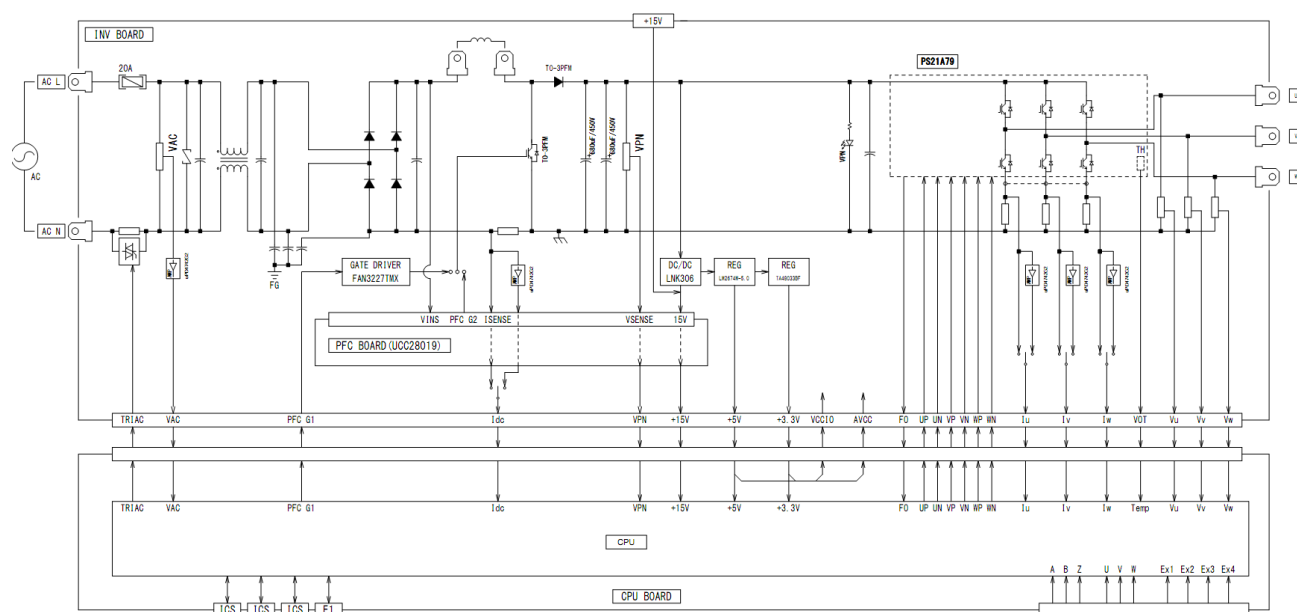


図 2.1. インバータブロック図

2.3. 仕様

項目	仕様	備考
使用温度範囲	0°C～35°C	
使用湿度範囲	90%以下(結露しないこと)	
外形寸法	250 x 350 x 180 mm	突起物を含まず
重量	4.0kg	ICS を含まず
動作入力電圧範囲	AC85V～AC265Vrms	
最大入力電力	3kW AC200Vrms 入力時	AC100Vrms 入力時は、1.5kW になります。
定格出力容量	4kVA AC200Vrms 出力時	スイッチング周波数 15kHz 時
定格出力電流	AC11.6A rms AC200V 出力時	スイッチング周波数 15kHz 時
スイッチング周波数	2kHz～20kHz	左記のデータは参考です。ソフトウェア、負荷などに依存します。
デッドタイム	2.5us	左記のデータは参考です。ソフトウェア、負荷などに依存します。
電流検出方式	3シャント方式	1シャント方式に改造可能
シャントレジスター	10mΩ	
PWM 論理	正論理	
主回路素子	PS21A79	三菱電機
制御電源	主回路電源から生成(非絶縁)	
主回路—制御回路間絶縁	非絶縁	
冷却	AC ファンによる強制空冷	
PFC コントローラ	UCC28019A	ソフト PFC もジャンパーで選択可能
PFC 主回路素子	FCH041N60F APT60DQ60BCTG	MOSFET FairChild Vds=600V, Id=48.1A @100deg Fast recovery diode APT Vr=600V, If=60A @110deg
系統電圧センサー	OPAMP による差動検出方式	
DC バス電流センサー	シャント抵抗による電圧検出	
DC バス電圧センサー	抵抗分割による検出	
3相出力電流検出	シャント抵抗による電圧検出	
3相出力電圧検出	抵抗分割による検出	
IPM 温度センサー	IPM 内蔵サーミスタ	

※注意 各種最大値、定格値は、負荷の種類、入力電圧、周囲環境、空冷条件などによって変わることがあります。デスクトップラボでは、これらの定格値・最大値を全ての条件において保証するものではありません。実験環境、負荷環境などに応じて、お客様で保護をかけるようにしてください。

3. 各回路ブロックの注意事項

3.1. 突入防止回路

【重要】本項目を守らないと、インバータが破損します。

本インバータには、下の回路図のような突入防止回路が付属しています。突入防止回路とは、電源ON時に、インバータが破損するのを防止するための回路です。直流リンクの大きなコンデンサに電荷がたまっていない時に AC 電源を入れた場合、コンデンサの両端の電圧はほとんど 0V であるため、コンデンサに非常に大きな電流が流れます。このような状況が発生すると、『系統側に問題を発生させる。』、『インバータのさまざまな素子を破壊する』など不具合の発生原因になります。よって、このような大きな電流が流れるのを防止するために突入防止回路を付加します。使用用途が固定されているシステムでは、ハードウェアによって、自動的に動作するようなタイプもありますが、本インバータは用途が固定されていないため、CPU による制御を行う仕様になっています。

回路としては、系統に直列に抵抗を入れ、その両端を短絡できるようなリレー、トライアックを接続するような形式となります。動作としては、電源投入直後は、リレー、トライアックを解放し、直流リンクの電圧が十分上がった時に、リレーやトライアックで抵抗の両端を短絡することで、通常の使用状況に移行します。

この突入防止回路は、不具合を防止するための回路ですが、使い方を誤ると、逆に抵抗が破損させたりしてインバータを故障させてしまう原因になります。以下の注意を守るようにしてください。

※突入防止回路ゲート制御手順例：

以下の手順で CPU によりトライアックのゲート信号を制御してください。

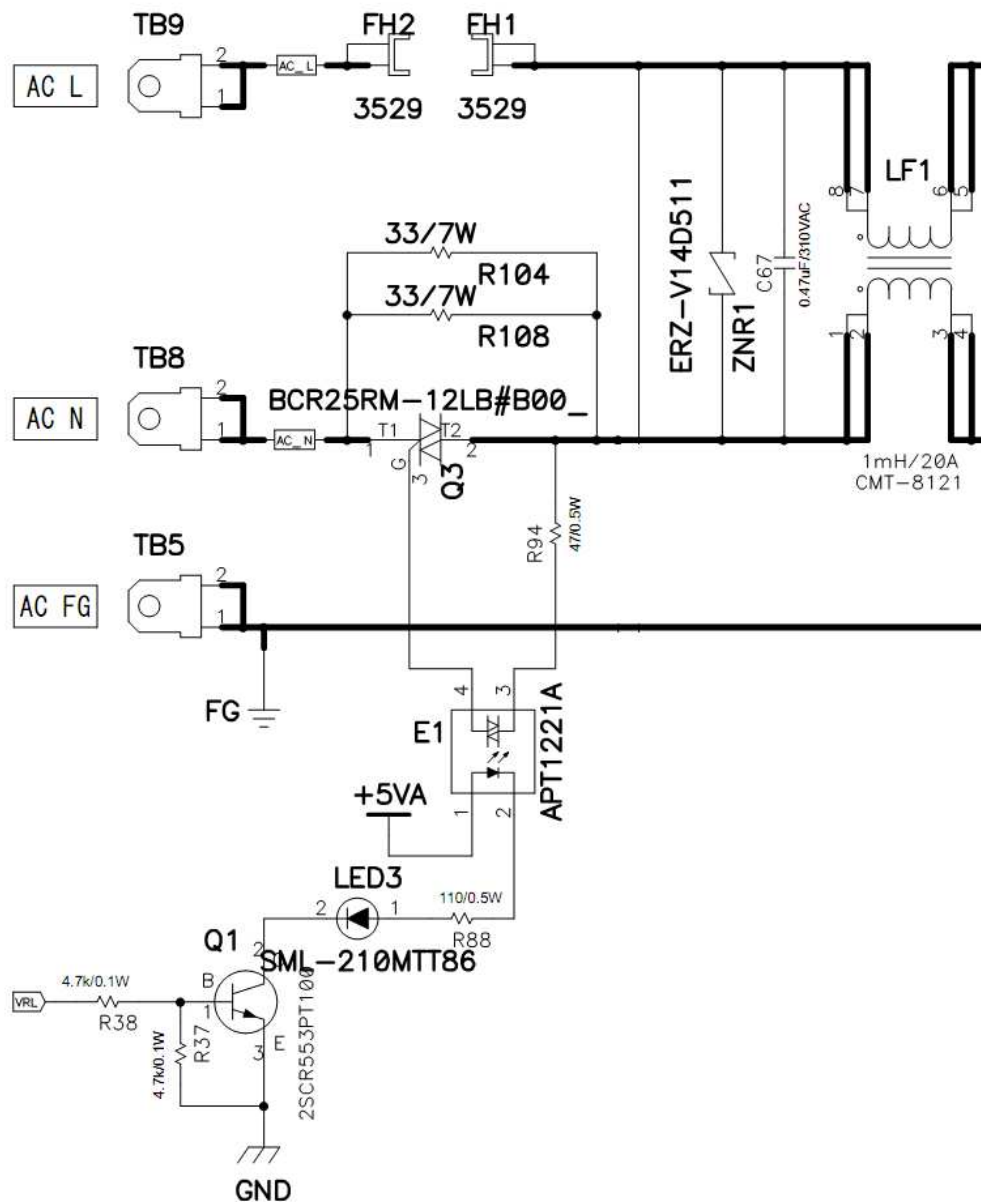
- A) DC リンク電圧が系統入力電圧、もしくは、PFC 設定電圧（デフォルトは 390V）の 80%程度になるまで、ゲート OFF の状態を保つ。
- B) 80%に達したら、ゲートを ON する。
- C) 以降、ゲートを OFF しない。

※注意

1) トライアックのゲートを ON しない状態で、出力側の三相インバータを動作させないでください。突入防止抵抗に大電流が流れ続け、抵抗が破損します。

2) トライアックのゲートを一度 ON したら、動作中は、ゲートを OFF しないようにしてください。

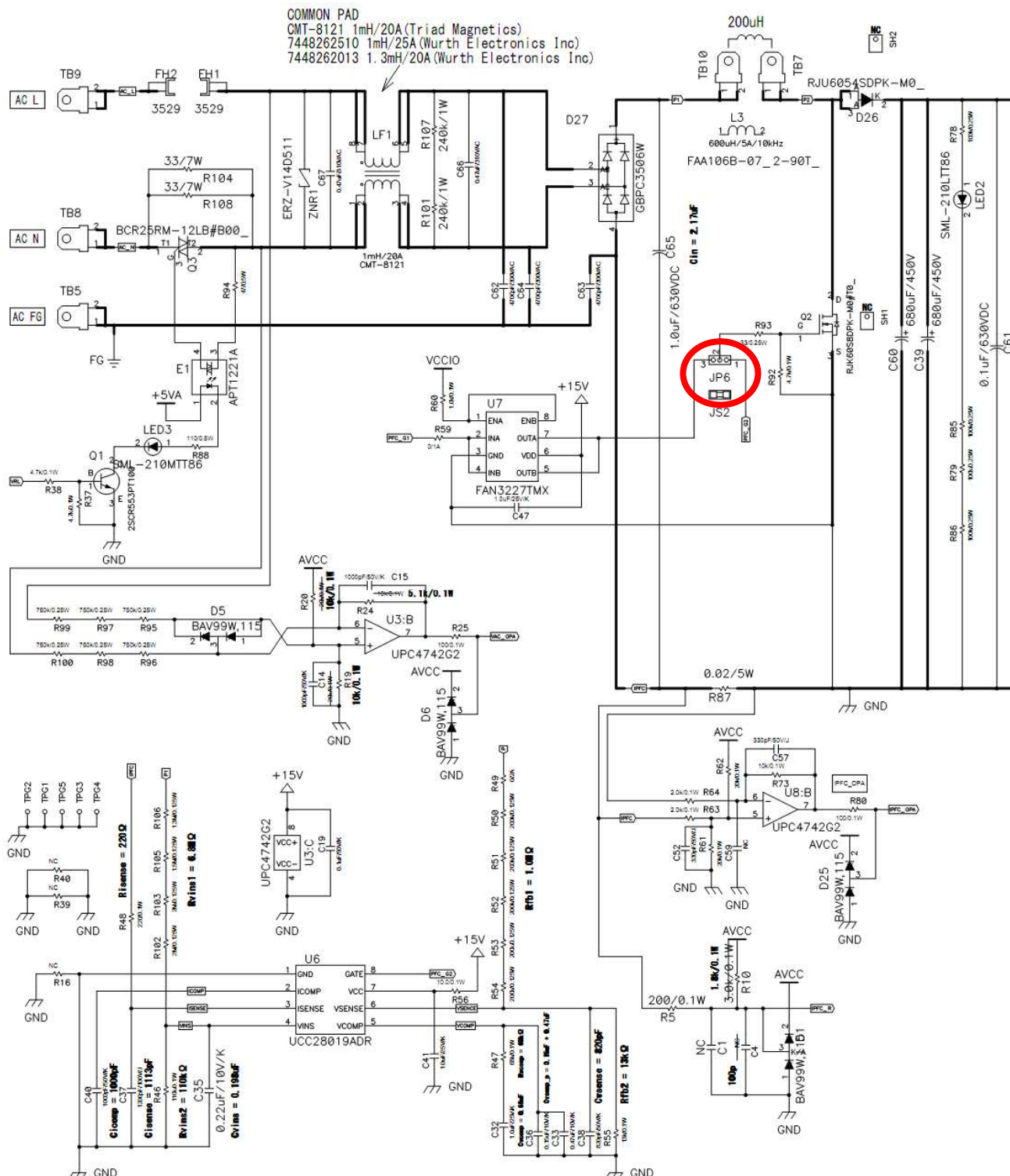
3) 電源の ON/OFF を連続で行わないでください。突入防止抵抗が発熱し、断線などの破壊原因となります。



3.2. PFC 回路

本インバータには、PFC 機能を実現するアナログ PFC IC と、CPU のソフトウェア PFC を実現する回路の両方が搭載されています。この機能の切り替え方法は、下記の通りです。

下図中の JP6 1-2 を短絡すると、アナログ PFC 回路が動作します。2-3 を短絡すると、U7 のゲートドライバを介して、CPU の端子が直接 MOSFET のゲートを制御する状態になります。JP6 をオープンにすると、PFC は不使用になります。ご使用の用途に従って、設定してください。



3.3. 電流検出回路のオペアンプの選択

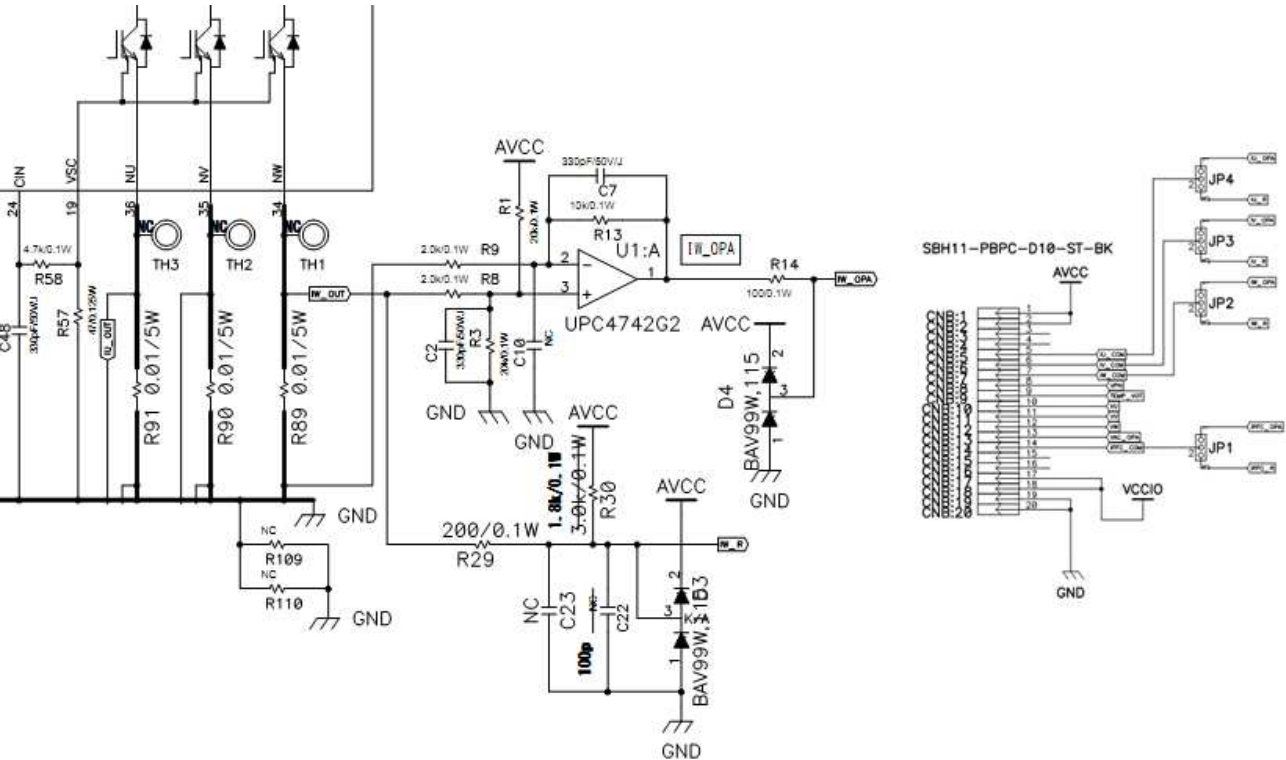
三相電流検出回路の例を、W 相部分を切り出して説明します。他の相も同様です。電流検出回路は、オペアンプを介した出力と、直接出力の2通りの出力があります。2つの出力は、JP1, JP2, JP3, JP4 のジャンパーで選択され、CPU ボードに接続されます。CPU の使用状況に従って、ジャンパーの設定をしてください。

AVcc = 5V 時

JP	1-2 Short, 2-3 Open		1-2 Open, 2-3 Short	
	出力	式	出力	式
JP1	Iu OPAMP 出力選択	$V_{out} = (10 * R * I_{in} + AV_{cc}) / 2$ $I_{in}=50A \rightarrow V_{out}=5V$ $I_{in}=0A \rightarrow V_{out}=2.5V$ $I_{in}=-50A \rightarrow V_{out}=0V$	Iu 直接出力選択	$V_{out} = (9 * R * I_{in} + AV_{cc}) / 2$ At 内蔵 OPAGain=5 $I_{in}=55.56A \rightarrow V_{out}=5V$ $I_{in}=0A \rightarrow V_{out}=2.5 V$ $I_{in}=-55.56A \rightarrow V_{out}=0V$
JP2	Iv OPAMP 出力選択		Iv 直接出力選択	
JP3	Iw OPAMP 出力選択		Iw 直接出力選択	
JP4	Ipfcc OPAMP 出力選択		Ipfcc 直接出力選択	

AVcc = 3.3V 時

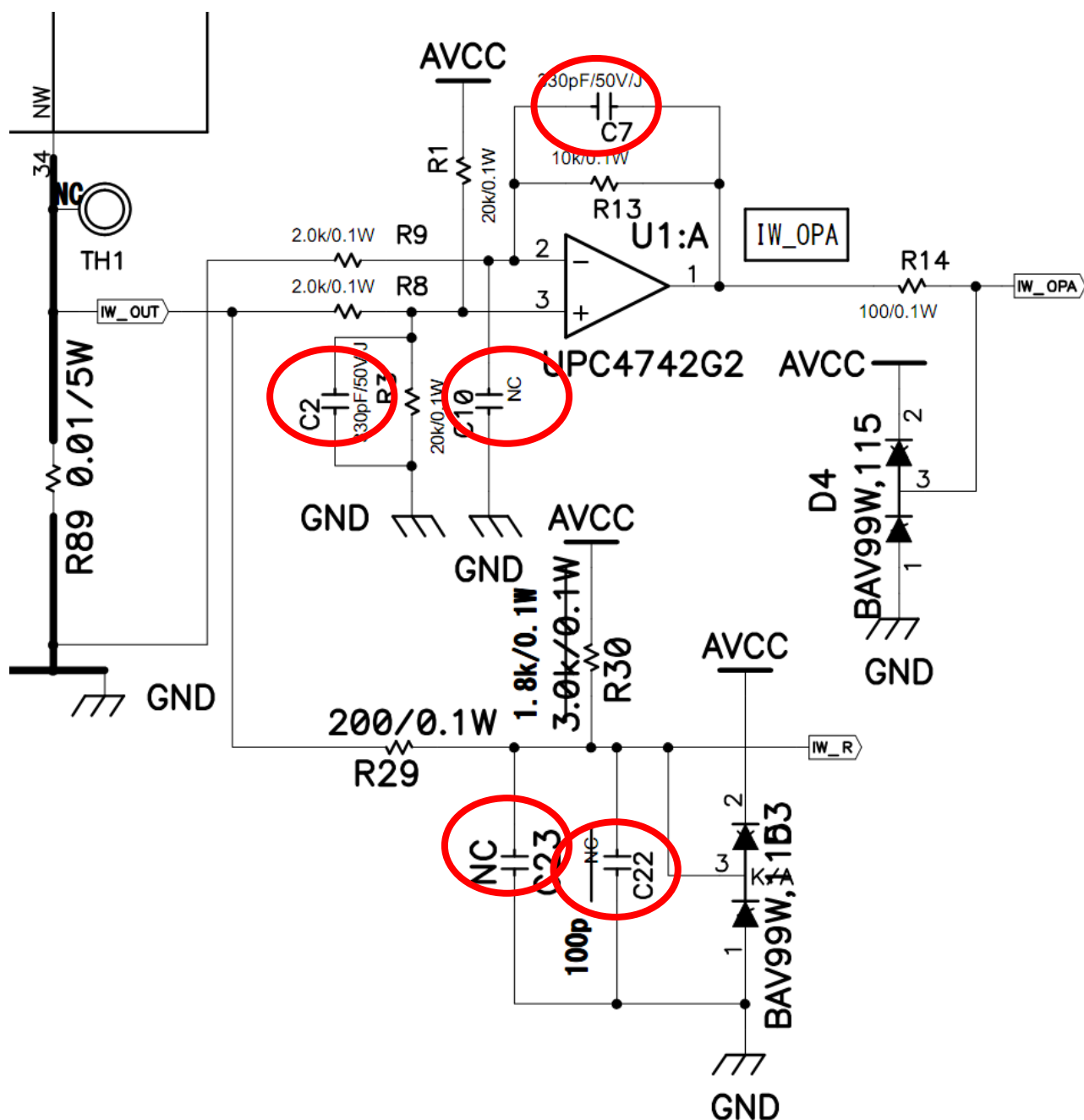
JP	1-2 Short, 2-3 Open		1-2 Open, 2-3 Short	
	出力	式	出力	式
JP1	Iu OPAMP 出力選択	$V_{out} = (10 * R * I_{in} + AV_{cc}) / 2$ $I_{in}=33A \rightarrow V_{out}=3.3V$ $I_{in}=0A \rightarrow V_{out}=1.65V$ $I_{in}=-33A \rightarrow V_{out}=0V$	Iu 直接出力選択	$V_{out} = (9 * R * I_{in} + AV_{cc}) / 2$ At 内蔵 OPAGain=5 $I_{in}=36.67A \rightarrow V_{out}=3.3V$ $I_{in}=0A \rightarrow V_{out}=1.65 V$ $I_{in}=-36.67A \rightarrow V_{out}=0V$
JP2	Iv OPAMP 出力選択		Iv 直接出力選択	
JP3	Iw OPAMP 出力選択		Iw 直接出力選択	
JP4	Ipfcc OPAMP 出力選択		Ipfcc 直接出力選択	



3.4. 電流検出回路のフィルター

電流検出回路のフィルターは、用途や、ノイズ環境、スイッチング周波数、制御方法などにより、変更する必要があります。本インバータでは下の回路図の W 相部分の様に、フィルターコンデンサ用のパターンが用意されています。実装済みのパターン、非実装のパターンの両方がありますが、用途によって、コンデンサの値を変更、未実装部分に新たに追加するなどを行い、調整をしてください。

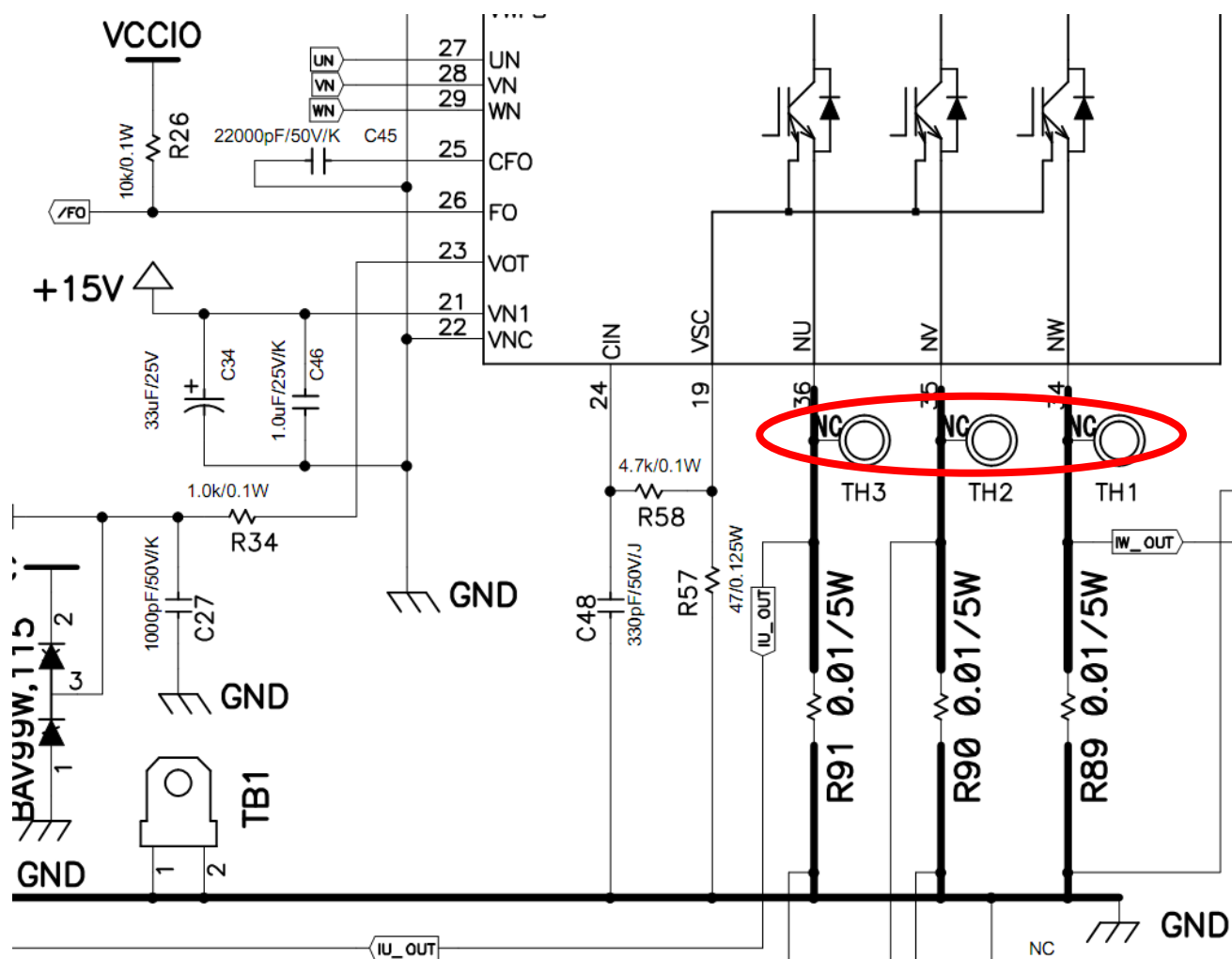
CPU ボード上の AD 入力にも CR フィルターが実装されています。この部分も影響するので、注意してください。



3.5. ワンシャント電流検出時の改造箇所

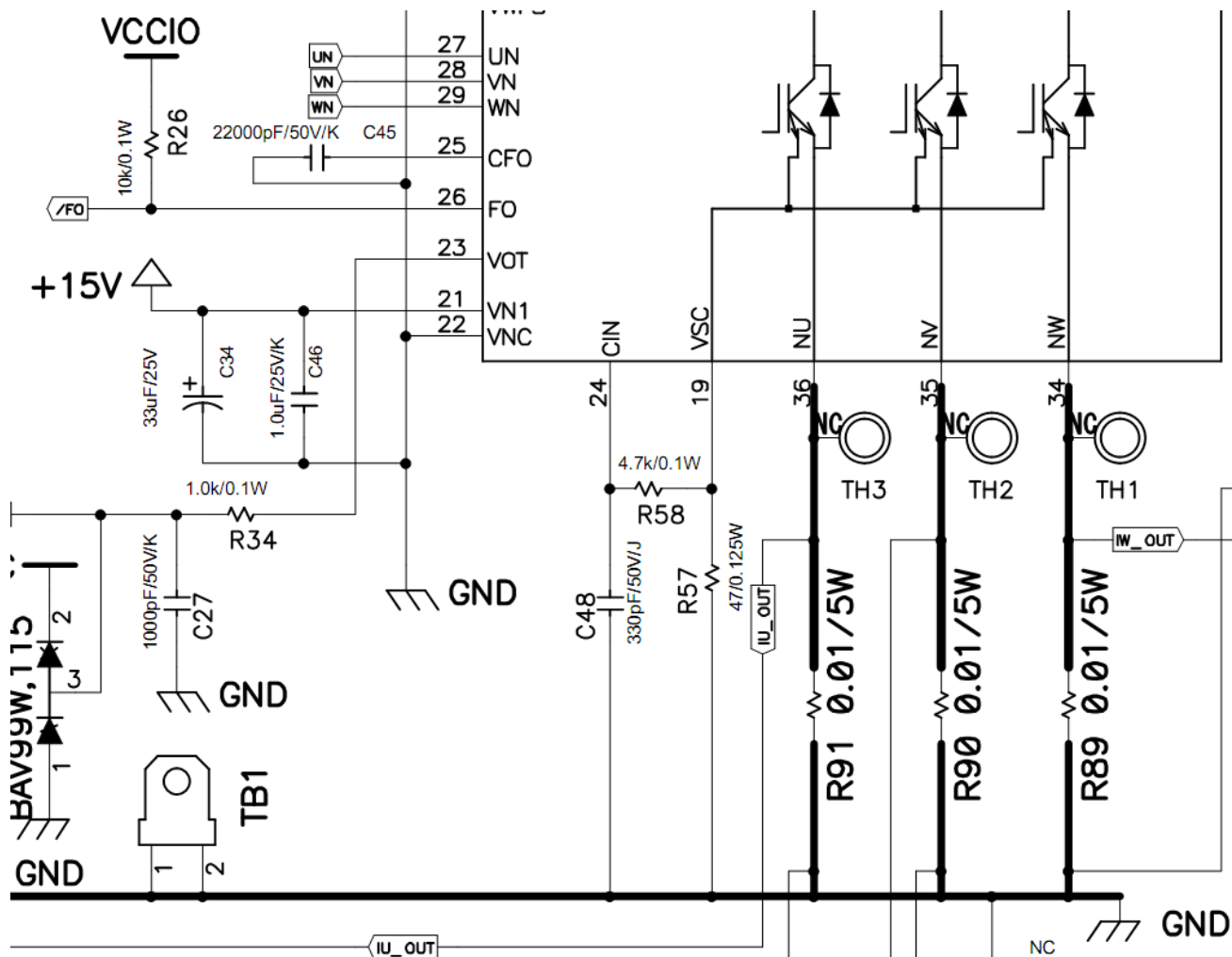
本インバータでは、三相電流検出は、3シャント方式を前提としています。ただし、改造により、ワンシャント電流検出方式にハードウェアとしては、対応可能です。ワンシャント電流検出方式に対応する場合には、下図の TH1, TH2, TH3 部分を短絡してください。

また、この改造を行った場合には、電流検出抵抗の値が $1/3$ になってしまいます。このため、必要に応じて抵抗を交換する、取り外すなどを行い、適切な値に変更する必要があります。



3.6. 主回路過電流検出回路

本インバータでは、主回路の過電流検出回路として、IPM 内蔵のコンパレータを利用した回路を採用しています。IPM エラー出力を/FO として、CPUに入力しています。CPU の/POE や/INT に割り当てられているため、必要に応じて、ゲートブロック処理を行ってください。CPUによっては機能がないため、ハードウェアブロック機能を使用できない場合があります。



3.7. 出力電圧検出回路

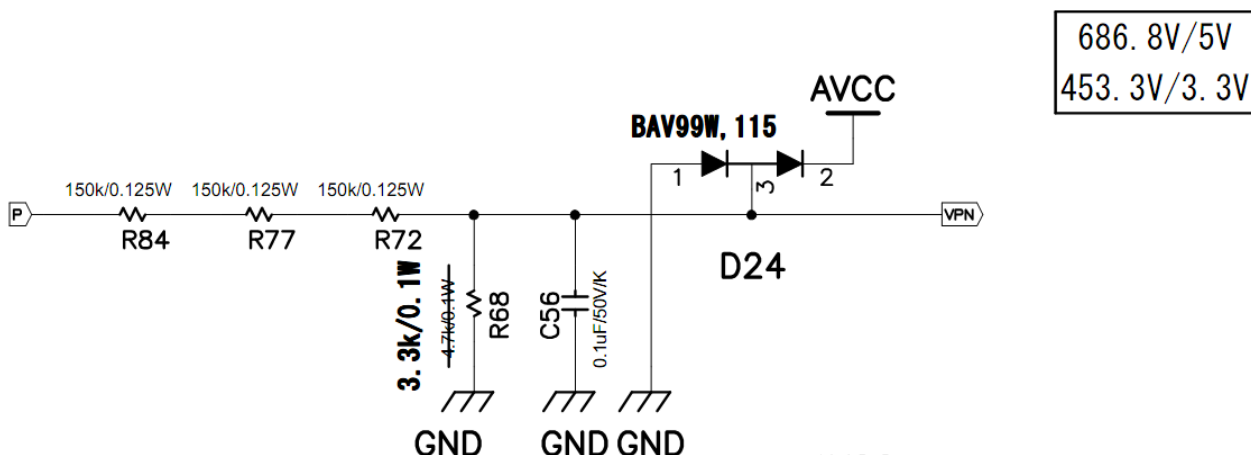
本インバータでは、DC リンク電圧、三相出力電圧の計 4 点の電圧検出回路を持っています。

AVcc = 5V 時

電圧	式
DC link	$V_{out} = \frac{5.0}{686.8} \times V_{in}$ Vin=686.8V -> Vout=5V Vin=0V ->Vout=0V
U phase	
V phase	
W phase	

AVcc = 3.3V 時

電圧	式
DC link	$V_{out} = \frac{3.3}{453.3} \times V_{in}$ <p>Vin=453.3V -> Vout=3.3V Vin=0V ->Vout=0V</p>



3.8. CPU 電圧切り替え方法

CPU には、3.3V, 5V の物がありますが、本インバータは、CPU の種類に応じてインバータボードの制御用電圧 AVcc, Vio を自動的に切り替える機構が組み込まれています。従って、インバータボード、CPU ボードの双方に設定の必要はありません。

※切り替え方法、

インバータ側の、AD のオフセット電圧を決める AVcc、デジタル I/O の動作電圧を決める Vio は、CPU ボードより供給しています。つまり、5V 版の CPU ボードは、AVcc = 5V, Vio=5V を供給し、3.3V 版の CPU ボードは、AVcc=3.3V, Vio=3.3V を供給するようにすることでインバータとの対応を行っています。ただし、今後の CPU については、これ以外の組み合わせで対応する可能性もあります。

3.9. CPU カードとの接続情報

本インバータは、DTL 製標準 CPU カード仕様に準拠した仕様になっています。以下に CPU カードとのピン対応表を示します。

CN-A Digital	Direction	STD Inverter	T5201 RX62T 100pin *1	T5202 RX62T 64pin *1	T5101 RL78/G14 64pin	T5301 RX111 64pin	T5102 RL78/F14 80pin	—— RX63U 100pin
1	To INV	—	PA2	PA2	P52	P32	P44	
2	To INV	—	PA3	PA3	P53	PB0	P47	
3	To INV	PFC_G1	PD0	PB0	P54	PA1	P41	
4	To INV	VRL	PB3	PB3	P55	PA0	P42	
5	To CPU	/FO	P70	P70	P137	PB5	P137	
6	To CPU	—						
7	To INV	WN	P76	P76	P10	P55	P30	
8	To INV	VN	P75	P75	P11	PB1	P16	
9	To INV	UN	P74	P74	P14	PB6	P120	
10	To INV	WP	P73	P73	P12	P54	P17	
11	To INV	VP	P72	P72	P13	PB3	P15	
12	To INV	UP	P71	P71	P15	PB7	P125	
13	To CPU		P91	P91	P05	P35	P46	
14	To CPU		P92	P92	P06	P31	P45	
15	To CPU	5V	5V	5V	5V	5V	5V	
16	To CPU	5V	5V	5V	5V	5V	5V	
17	To CPU	GND	GND	GND	GND	GND	GND	
18	To CPU	GND	GND	GND	GND	GND	GND	
19	To CPU	3.3V	3.3V	3.3V	3.3V	3.3V	3.3V	
20	To CPU	3.3V	3.3V	3.3V	3.3V	3.3V	3.3V	

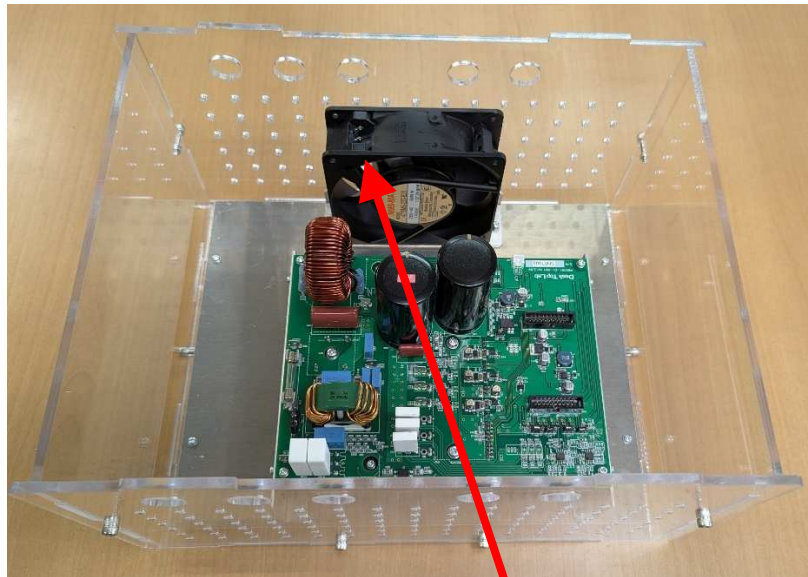
CN-B Analog	Direction	STD Inverter	T5201 RX62T 100pin *1	T5202 RX62T 64pin *1	T5101 RL78/G14 64pin	T5301 RX111 64pin	T5102 RL78/F14 80pin	----- RX63U 100pin
1	To INV	AVCC	5V	5V	5V	3.3V	5V	
2	To INV	AVCC	5V	5V	5V	3.3V	5V	
3	To CPU	—						
4	To CPU	—						
5	To CPU	IU	ANI 000	ANI 000	ANI 0	ANI 0	ANI 2	
6	To CPU	IV	ANI 001			ANI 1	ANI 4	
7	To CPU	IW	ANI 002	ANI 001	ANI 1	ANI 2	ANI 3	
8	To CPU	VPN	ANI 003	ANI 002	ANI 2	ANI 3	ANI 8	
9	To CPU	TEMP(Vot)	ANI 0	ANI 103	ANI 7	ANI 4	ANI 10	
10	To CPU	VU	ANI 101	ANI 003	ANI 3	ANI 6	ANI 5	
11	To CPU	VV	ANI 102	ANI 100	ANI 4	ANI 8	ANI 6	
12	To CPU	VW	ANI 103	ANI 101	ANI 5	ANI 11	ANI 7	
13	To CPU	(VAC)	ANI 1		r ANI 16	ANI 12	ANI 9	
14	To CPU	(IPFC)	ANI 100		r ANI 17	ANI 13	ANI 13	
15	To CPU	(VR1)	ANI 2	ANI 102	ANI 6	ANI 14	ANI 11	
16	To CPU	(RSV)	ANI 3		ANI 19	ANI 15	ANI 12	
17	To INV	VCCIO	5V	5V	5V	3.3V	5V	
18	To INV	VCCIO	5V	5V	5V	3.3V	5V	
19	To CPU	GND	GND	GND	GND	GND	GND	
20	To CPU	GND	GND	GND	GND	GND	GND	

※注意 1

T5201 RX62T 100pin は、本インバータのフル機能をサポートしますが、ルネサスエレクトロニクス製の RSSK キットと AD のピン割り当てなど一部が異なります。RSSK キットと類似の AD ピン割り当てを希望する場合には、CPU ボードとして、T5202 (RX62T 64pin)を選択してください。

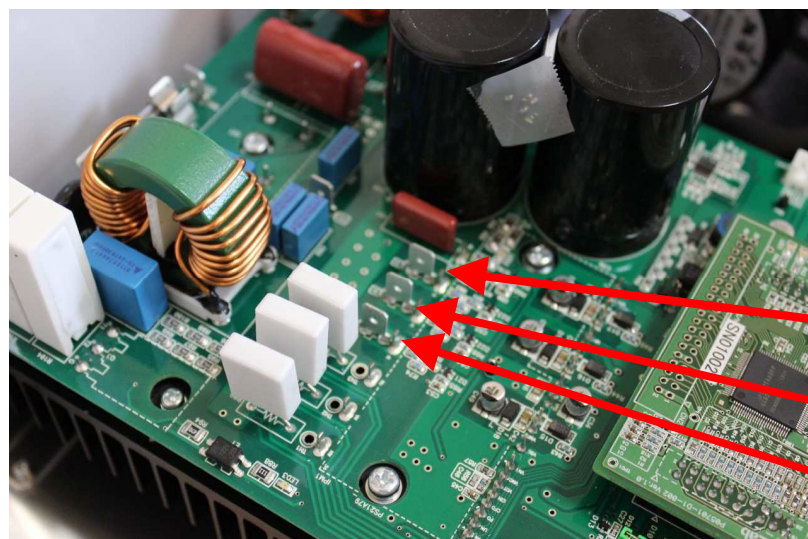
4. 外部接続

4.1. FAN power input



Connect FAN power input connector

4.2. Inverter AC output

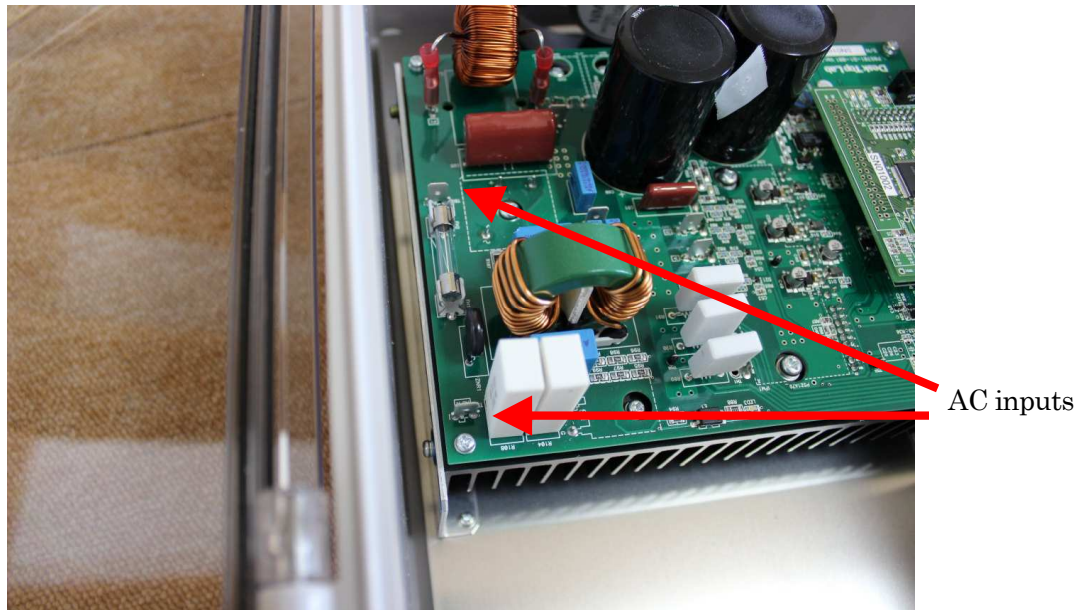


U phase output

V phase output

W phase output

4.3. Inverter AC input



5. 温度上昇データ

5.1. 温度上昇データ

本インバータを入力電圧 AC200Vrms、LR 負荷で電力をとった場合の温度データの例を示します。本データは、温度がほぼ安定した際の値です。

条件：

T1102 inverter + RX62T 100pin CPU card

内蔵 FAN 100V rms

気温 25°C

負荷 3相 LR 負荷

入力電力	PFC 用 ダイオード	PFC 用 MOSFET	PFC 用 インダクタ	ブリッジ ダイオード	突入防止 TRIAC	IPM
1.0kW	31°C	34°C	33°C	31°C	38°C	40°C
1.5kW	36°C	42°C	38°C	35°C	44°C	43°C
2.0kW	41°C	48°C	43°C	42°C	55°C	45°C
2.4kW	45°C	60°C	50°C	44°C	65°C	48°C
2.85kW	52°C	71°C	63°C	52°C	76°C	56°C
3.0kW	56°C	83°C	69°C	54°C	82°C	58°C
3.2kW	65°C	89°C	75°C	62°C	84°C	60°C

6. 発注情報

6.1. 型番一覧

本製品は、指定オプションによって、下記のような構成の違いがあります。

型番	Inverter	ファン
T1102D-V100	T1102 Ver.2.02	AC110V
T1102D-V200	T1102 Ver.2.02	AC230V

6.2. 過去の製品

型番	Inverter	ファン
T1102A-V100	T1102 Ver.2.00	AC110V
T1102A-V200	T1102 Ver.2.00	AC230V
T1102B-V100	T1102 Ver.2.01	AC110V
T1102B-V200	T1102 Ver.2.01	AC230V
T1102C-V100	T1102 Ver.2.02	AC110V
T1102C-V200	T1102 Ver.2.02	AC230V

6.3. T1102A / T1102B / T1102D の違い

T1102A / T1102B / T1102D は、ごく一部の回路定数、ケースなどが異なります。

Inverter	Circuits	Enclosure	備考
T1102A-Vxxx	P05701-C0-001-V2.00	TAKACHI BCAP253518T	販売数は数台です。
T1102B-Vxxx	P05701-C0-001-V2.01	TAKACHI BCAP253518T	
T1102C-Vxxx	P05701-C0-001-V2.02	TAKACHI BCAP253518T	販売数は0台です。
T1102D-Vxxx	P05701-C0-001-V2.02	DTL Acrylic enclosure	2025/7/26 以降出荷分

6.3.1. ケースの違い

T1102A / T1102B / T1102C は、ケースとして 【タカチ】 BCAP253518T を使用しています。
T1102D は、ケースとして、DTL製のアクリルケースを使用して、内部を見やすくしました。

6.3.2. T1102A の回路

回路図 P05701-C0-001 Ver.2.00 で製作されています。
極少数のみ販売されています。

6.3.3. T1102B の回路

回路図 P05701-C0-001 Ver.2.01 で製作されています。
販売数のほとんどが、このインバータです。

6.3.4. T1102C の回路

回路図 P05701-C0-001 Ver2.02 で製作される予定でした。販売されていません。
高電力時の音なき対策として、Ver.2.01 と比較して、PFC 部分のコンデンサの値が変更されています。

6.3.5. T1102D の回路

回路図 P05701-C0-001 Ver2.02 で製作されています。2025/7/26 以降出荷分となっています。
高電力時の音なき対策として、Ver.2.01 と比較して、PFC 部分のコンデンサの値が変更されています。

Trial series T1102D 3kW 4kVA High Voltage Inverter Unit Users Manual

発行年月日 2025 年 7 月 26 日 Ver.1.00 JP

発行 株式会社デスクトップラボ
〒192-0362 東京都八王子市松木 3 5 - 7 倉庫付き事務所 1 0 1
